



イノアックCSRレポート2017

INOAC CSR REPORT 2017

目次

目次、編集方針	01	価値向上のために	
企業理念、行動指針	02	お客様の声を活かした製品づくり	21
ごあいさつ	03	サプライチェーンマネジメント	22
会社プロフィール		社会とのコミュニケーション	
会社概要	04	社会・地域貢献活動	23
【特集】社会的課題への取り組み		働きやすい職場づくり	
地球温暖化防止	07	ワークライフバランスの推進	25
女性活躍の推進	11	ダイバーシティの取り組み	26
環境との調和		人材育成	27
環境マネジメント	13	安全衛生・防災	28
環境負荷の低減	15	ガバナンス	
化学物質の情報管理	17	コーポレート・ガバナンス	29
環境コミュニケーション	18	コンプライアンス	30
環境対応製品事例	19		

| 報告期間 | 本報告書は株式会社イノアックコーポレーションにおける2016年度(2016年1月1日~12月31日)の活動実績をもとに作成
※2015年度とそれ以前・2017年度の内容も一部含まれます。

| 対象範囲 | (株)イノアックコーポレーション(安城事業所、桜井事業所、南濃事業所、八名事業所、
石巻事業所、池田工場、池田第二工場、大野工場、神野工場、浮羽工場、本社(名古屋)、東京支店、大阪支店)、
(株)イノアック住環境(揖斐川事業所)、(株)九州イノアック(菊池工場、浮羽工場、北九州工場)、
(株)テクノフォームジャパン(本社、埼玉工場) (株)九州カラーフォーム

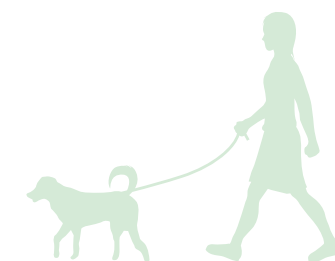
| 参考とするガイドライン | ◎「環境報告ガイドライン2012年度版」 ◎ISO26000



企業理念

一本の大きな木を育てるより、 多くの個性ある木を育て、美しい森をつくる。

イノアックは「暮らしをもっと豊かにしたい」という思いから、ひとつの事業に特化することなく、ウレタン・ゴム・プラスチック・複合素材という4つの苗をもとに、多くの事業(=木)を育て、企業体として多彩な製品、サービスを作り出し、社会へ貢献して参りました。イノアックはこれからも多くの個性ある木を育てることで、時代のニーズにお応えしていきます。



Innovation & Globalization

イノアックは高分子化学で世界をリードし、迅速な決断と行動で、活気と個性に満ちたグローバル集団をめざします。それと共に「行動指針」を定め、社内外ともに裏表のない行動で「企業理念」を確実に実行・実現することで、地域社会、顧客、イノアックに関わる全ての人々に信頼されるブランドを確立します。

行動指針

- 挑戦** 自由に発想し失敗を恐れず行動します。
- 収益** 継続的な事業発展と利益ある成長をめざし行動します。
- CS** 顧客満足度を高めるよう行動します。
- チームワーク** 個性を発揮し、信頼される行動をします。
- 誠実・信頼** 虚偽を廃し、信頼される行動をします。
- 責任** 責任を持って最後まで行動します。

ごあいさつ

変化をチャンスに ～Change & Innovation～

皆様には、平素より当社の企業活動に格別のご高配とご支援を賜りまして、厚くお礼を申し上げます。

2016年を振り返りますと、国内経済は、日銀によるマイナス金利政策の導入など、金融・為替市場に生じた動揺によって先行き不透明な環境が続いたものの、雇用環境の改善から個人消費も安定し、緩やかな景気の回復となりました。一方、海外では、米国経済は雇用環境の改善が継続し個人消費の拡大から堅調に推移したものの、中国経済においては成長が鈍化、東南アジア諸国においては、地域差はあるものの、物価の安定や景気対策の効果などにより底堅く推移しました。

昨年、英国によるEU離脱、米国における政権交代、北朝鮮ミサイル問題等、我々を取り巻く環境に大きな変化が多くみられましたが、2017年は様々な面で世界が変わる時代がスタートすると思われまます。米国新政権の動向や英国のEU離脱の行方、欧州各国での国政選挙の影響など、今後も不透明な環境が続くと懸念され、世界情勢の動向に注視が必要です。

このような不安定な環境ではありますが、変化にはリスクもあるがチャンスもあると捉え、当社では“Change & Innovation”を2017年度の全社テーマに掲げ、グローバルな事業活動に取り組んで参りたいと考えております。

事業活動の展開にあたっては、グローバル人材の積極的な育成と登用を推進する「グローバル経営体制の確立」と、素材を基軸とした「成長市場での事業開拓」を成長への足元固めとし、「世界ナンバーワン、オンリーワンをめざした技術開発」「信頼される製品づくり」「グローバル最適調達」で競争力を強化してさらなる成長をめざします。

国内においては、工場の再編、生産拠点の強化を図るとともに、開発拠点を拡充し顧客のニーズに迅速に対応できる体制を整え、また、海外においては、新規事業の開拓をはじめ、さらなる事業の拡大、新工場を活用した拡販活動を推進して参ります。

皆様方には引き続きご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



株式会社イノアック コーポレーション

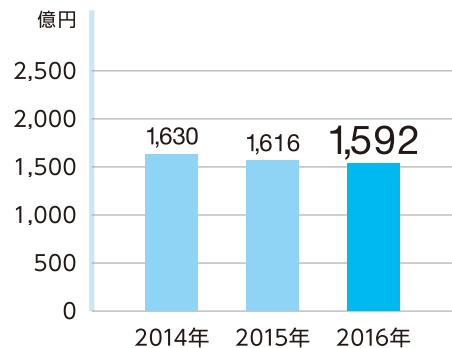
代表取締役 翁 豊彦

会社概要

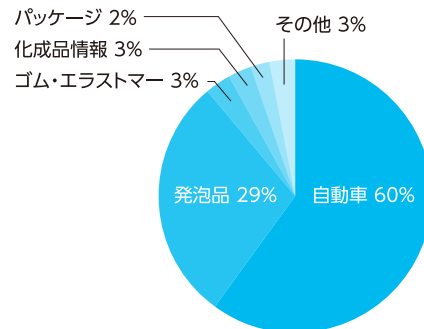
社名	株式会社イノアックコーポレーション INOAC CORPORATION
設立	1954年(昭和29年)
資本金	7億2,000万円
代表	代表取締役 井上聡一
社員数	1715名(2016年12月)
売上高	1592億円(2016年12月)
事業内容	ウレタン、ゴム、プラスチック、複合材をベースとした材料開発とその製品化により、自動車、二輪、情報・IT機器、住宅・建設関連から身近な生活関連商品、コスメ用品まで、様々な場面に密着した製品を取り扱う
本社	〒450-0003 名古屋市中村区名駅南二丁目13番4号
本社(東京)	〒141-0032 東京都品川区大崎二丁目9番3号(大崎ウエストシティビル4F)
事業所および工場	安城、桜井、南濃、新城、八名、豊橋、石巻、武豊、吉良、池田、大野、秦野
主要営業拠点	東京、中部、大阪、九州(支店)、札幌、東北、浜松、広島(営業所)
研究所	株式会社イノアック技術研究所
海外拠点	北米、中国、韓国、東南アジア

売上

■ 売上推移



■ 2016年度事業分野別売上



ネットワーク

国内主要拠点

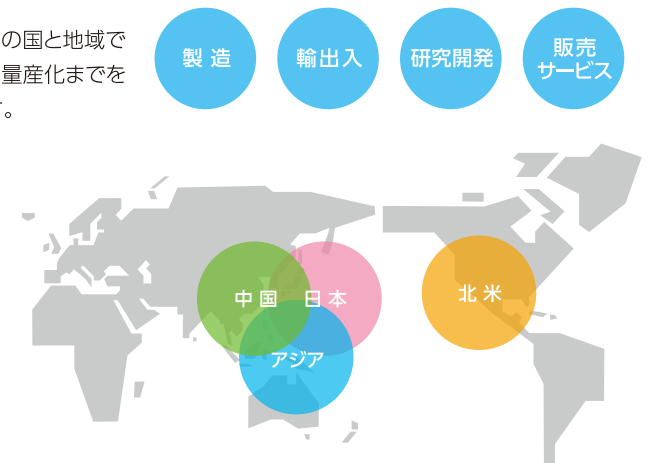
イノアックコーポレーションの全国ネットワークに加え、系列・関連・合弁会社が北海道から九州まで緊密な生産・販売ネットワーク体制を確立し、最適なソリューションを提供しています。



海外主要拠点

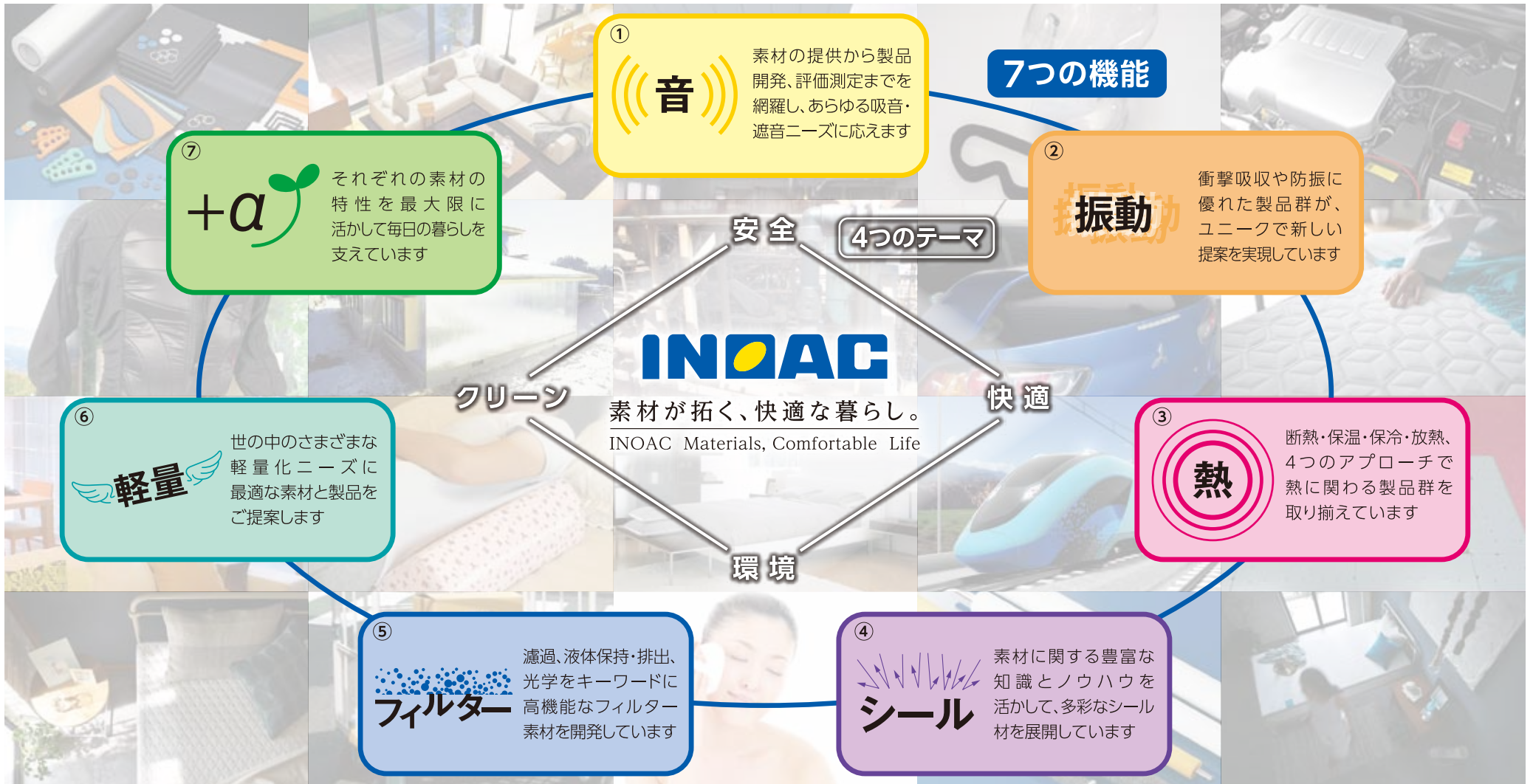
北米・アジアを中心として、全世界13の国と地域で研究開発から素材の加工・成型技術、量産化までを提案・提供する体制を構築しています。

- 〈北米 19社〉
アメリカ 11社
カナダ 3社
メキシコ 5社
- 〈中国 50社〉
中国本土 48社
香港 2社
- 〈アジア 42社〉
タイ 15社
台湾 3社
インドネシア 5社
ベトナム 6社
韓国 1社
シンガポール 5社
フィリピン 1社
マレーシア 4社
スリランカ 2社



事業紹介

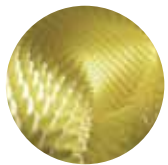
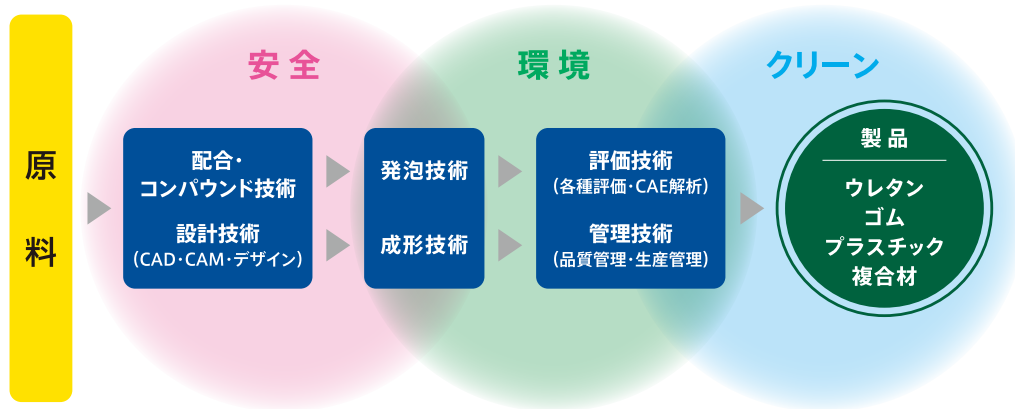
イノアックは素材加工メーカーとして社会のニーズに柔軟に対応し、貢献することが私たちの存在意義と捉えています。「安全」「快適」「環境」「クリーン」の4つのテーマのもとに「音」「振動」「熱」「シール」「フィルター」「軽量」「+α」の7つの機能軸を設けて製品を開発しています。ウレタン、ゴム、プラスチック、複合材をベースとした材料開発とその製品化により、自動車、二輪、情報・IT機器、住宅・建設関連分野から身近な生活関連商品、コスメ用品まで、生活の様々な場面に密着した製品で豊かな暮らしに貢献しています。



技術革新

研究開発

イノアックでは「暮らしを豊かにする」をモットーに、未来を見据え、創造性にあふれた研究開発に取り組んでいます。ポリマーを主体として各種ウレタン、プラスチックやエラストマーの配合・発泡・成形技術、その他複合材料の技術を駆使し、自動車産業をはじめ情報通信・電子機器・産業資材・生活用品等の幅広い分野で常に新しい素材を提供しています。また同時に、環境負荷の軽減、軽量、省エネルギー、高機能化の新製品、新プロセスの研究・開発を進めています。



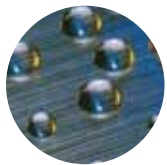
ウレタン



ゴム・エラストマー



プラスチック



新素材・複合材

研究・開発体制

イノアック技術研究所とグローバル技術本部ではゴム、ウレタン、樹脂の高機能化をめざし合成技術、配合・発泡技術を用いて新規材料の開発を進めています。近年、地球温暖化、VOCの削減など環境問題への対応も重要な課題となっており、クリーン材料の開発、製造時の省エネ化のテーマにも取り組んでいます。またイノアック技術研究所では、未来を見据えて新しい素材の調査・評価や大学との共同研究を通し、新技術の情報の収集に努めています。各事業部の技術部門では、成形・加工技術、材料の複合化技術を用いて顧客ニーズに合った製品の開発を進めています。さらに中国 (ITC China) では現地のニーズ、情報をいち早く取り込み開発を進めています。



ITC JAPAN

株式会社イノアック技術研究所



ITC CHINA

蘇州井上高分子新材料有限公司



イノアックは事業を通じて、わたしたちの身近にある社会的課題の解決に向けた、さまざまな取り組みを行っています。今回の特集では、「地球温暖化防止」と「女性活躍の推進」に関する取り組みをご紹介します。

特集 1

地球温暖化防止に向けた取り組み

■ 地中熱利用スパイラル型熱交換器が 平成28年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰(技術・製品化部門)を受賞

イノアックグループの(株)イノアック住環境は、2016年(平成28年)11月25日に発表された「平成28年度地球温暖化防止活動 環境大臣表彰」を受賞し、12月5日に表彰式が行われました。地球温暖化防止活動環境大臣表彰は、環境省が1998年(平成10年度)から、地球温暖化対策を推進するための一環として、毎年、技術開発・製品化部門、対策技術先進導入部門、対策活動実践・普及部門、環境教育活動部門、国際貢献部門の5部門において、地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人又は団体に対し、その功績をたたえるため、行っているものです。今回イノアック住環境は「技術開発・製品化部門」で受賞しました。



表彰式



スパイラル型熱交換器

特集1

地球温暖化防止に向けた取り組み

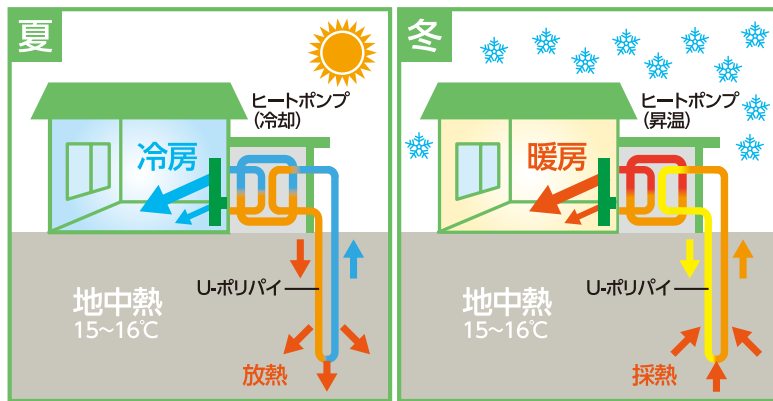
地中熱利用スパイラル型熱交換器とは？

■ 開発の背景

地球温暖化問題は日本のみならず、世界的に最重要な環境問題です。我が国も2016年5月、温室効果ガスの排出を2030年度に2013年比で26%削減する中期目標と、2050年までに80%削減する長期的目標をめざし、取り組むべき対策や国の施策が記載された「地球温暖化対策計画」が閣議決定しました。再生可能エネルギーの最大限の導入の取り組みもその中に含まれており、地中熱利用もそのひとつです。

地中の温度は、ある程度の深さになると年間を通じて一定になり、夏は外気温よりも地中の温度が低く、冬は外気温より地中の温度が高いため、この温度差を利用することにより、冷暖房や融雪などで省エネ化を効率的に行えます。

地中熱をヒートポンプの熱源として活用するのが地中熱ヒートポンプシステムで、近年普及し、東京スカイツリー、JPタワー（旧東京中央郵便局）、東京国際空港国際線ターミナル等に導入され、二酸化炭素の排出量削減、一次エネルギーの削減、ヒートアイランド現象の抑制等の効果が出ています。その主流となっている工法は通常、地中を60～100m掘削しUチューブ型の地中熱交換器を埋設設置していますが、高額な設置費用が普及の課題となっています。そこで設置費用を軽減できる浅層の地中熱に着目した「スパイラル型熱交換器」が生まれました。



再生可能エネルギーの「地中熱」を利用して
冷暖房を行う



東京スカイツリー地区
環境省「地中熱利用システム パンフレット」より



Uチューブ型熱交換器（製品名「U-ポリパイ」）

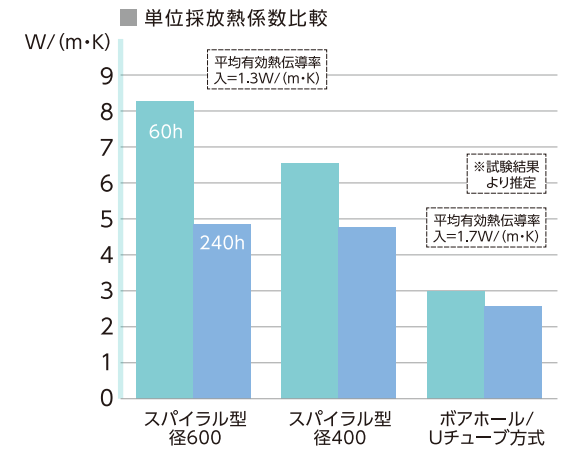
■ 特長

スパイラル型熱交換器は耐久性・耐衝撃性・耐薬品性に優れた素材を使用しています。スパイラル径が400～600mmと大きいため、熱容量が大きく、深度あたりの熱交換量と時間あたりの熱交換量も大きくなります。さらに地下水流がある地域では、高効率の地中熱交換量が期待できます。

設置方法としては、浅層土壌を利用するので掘削には汎用掘削機が使用でき、掘削時間も短縮できるので設置費用の削減につながり、今後広く普及することが期待できます。



スパイラル型熱交換器の施工



■ 導入事例

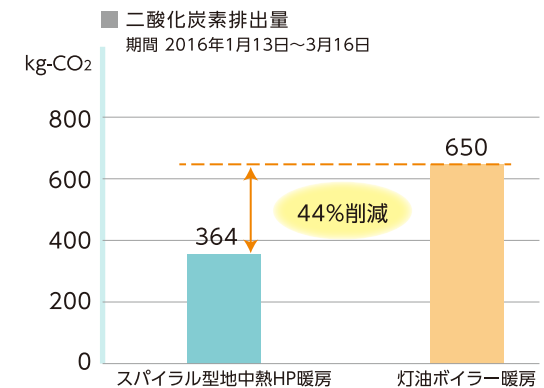
宮城県遠田郡美里町の新築戸建て住宅に2015年度に導入しました。

設置工法は、電柱を建てる時に使用する配電工事用建柱車を用いて深さ約5mの掘削を行い、スパイラル型熱交換器を設置しました。

2016年1月13日から3月16日まで24時間連続暖房運転の実証試験を行った結果、スパイラル型熱交換器利用地中熱ヒートポンプシステムは、灯油ボイラー暖房に対して一次エネルギー消費量を約34%、二酸化炭素排出量を約44%削減できた一方、Uチューブ型熱交換器工法に対して設置費用の約20%の削減を実現できました。



導入した戸建て住宅



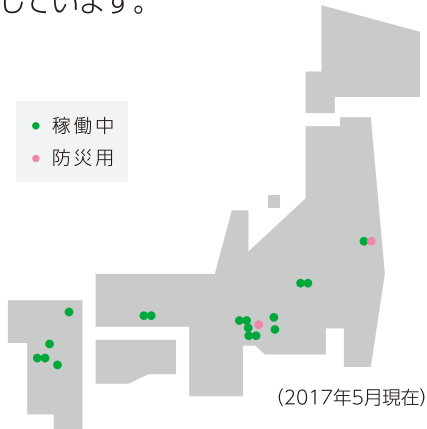
特集1

地球温暖化防止に向けた取り組み

地球温暖化防止に貢献し、限りある資源を有効活用するイノアックの事業と製品の一例をご紹介します。

■ 太陽光発電事業

工場敷地内の遊休地に、太陽光発電装置を設置しています。現在全国に15拠点設置し、資産の有効活用とともに地球環境の保全に貢献しています。



浮羽工場

■ 太陽光発電パネル設置容量

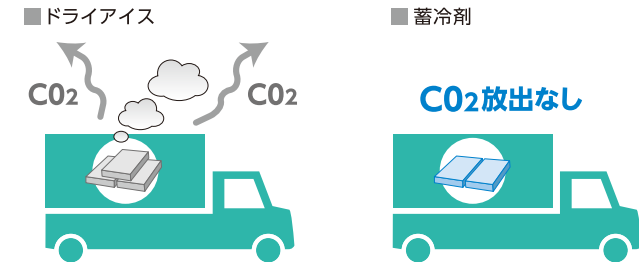
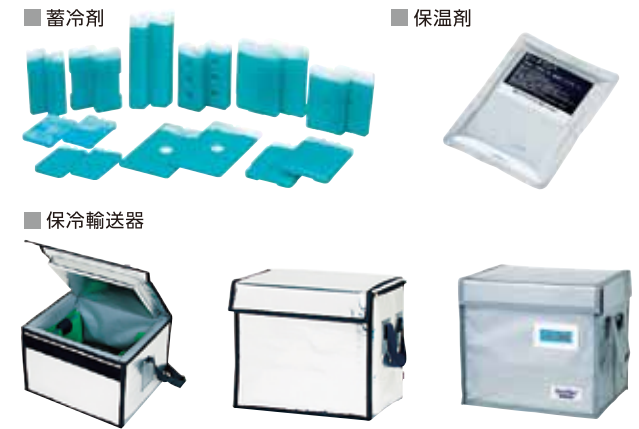
合計5,417kw

■ 保冷保温輸送システム

スーパー・コンビニや食品産業、医薬品輸送の分野では、「配送品質の保全・向上」が重要な課題であり、加えて近年では環境にやさしい輸送が求められています。

イノアックでは鮮度を保持する「蓄冷剤」、保冷品を効率よく運ぶ「保冷輸送容器」、そして特定の温度を保持する「保温剤」のきめ細かい温度設定のラインナップで、環境保全物流に貢献しています。

冷蔵・冷凍輸送に使用されるドライアイスは、気化すれば大気中にCO₂を放出し、繰り返しの使用ができません。一方蓄冷剤は本体からCO₂を放出せず、回収し再度凍結すれば、継続して再利用が可能です。加えてイノアックの蓄冷剤の内容物は天然由来のゲル剤なので、この点も環境に配慮しています。保冷輸送容器とともに使用することで、安全で効率的な保冷保温システムを提供しています。



イノアックの蓄冷剤の特徴

- ① CO₂を放出しない
- ② 再利用ができる
- ③ 環境に配慮した天然由来のゲル材を使用

特集2

女性活躍の推進

企業が存続するためには、女性社員の活躍の領域を今まで以上に広げ、女性社員がモチベーションを高く保ち、働きがいを感じながら仕事を続けられるようにしなければなりません。また社会の志向が多様化しており、企業にも様々なニーズに対応することが求められる中、女性の視点を積極的に活かすことにより、新たな価値を生み出すことが期待されます。少子高齢化が進む中、労働力不足の問題に対応するためにも、イノアックでは女性活躍の推進に取り組んでいます。

■ 女性開発チーム発足のきっかけ

イノアックには成人向けや介護用の寝具ブランドがあるなか、人の一生をトータルにサポートできる企業をめざし、女性チームプロジェクトとして新たにベビーキッズ事業が始動しました。このプロジェクトには東京支店に勤務する女性社員が参加し、商品の対象者となるママ社員の「当事者だから気づく視点」と、「育児未経験者ならではの新しい発想」を融合させることができました。女性ならではの視点を活かし、より生活者に近い目線での商品開発をめざすというテーマの下、機能だけにとどまらず、デザイン、使い勝手にもこだわる「女性目線」が新たな商品発想へとつながりました。



女性開発チームのメンバー

企画・開発総括:久保、奥村/企画:中西、鈴木、金/企画・デザイン:谷元/開発:白石/広報:林



特集2

女性活躍の推進

■ 活動の内容

女性開発チームでは7月6～8日に東京ビッグサイトで開催のベビー&キッズEXPOに出展することを目標に、子供と家族をサポートする、寝具から遊具まで幅広い商品の企画がスタートしました。各メンバーが市場調査はもちろん、育児中のママの意見も聞きながら、何度も試作と見直しを繰り返しながら商品を作りあげました。また展示会当日は、3日間で424人来場いただいたお客様にメンバーが商品の説明をし、ご意見を伺いました。また今回の展示会では、ウレタンを主とした発泡素材を扱った商品を展示しているところがほとんどなく、ブースのメインエリアに見やすく展示したことがインパクトとなり、多数の方に興味を持って来場していただきました。



展示会のブース

■ ベビー&キッズEXPOでの出展の一部

ペンギーノ(PINGUINO)ブランド～いつも成長のそばに～



アジャスティベビーマット：
成長に合わせてリバーシブルで使用



すやすやクルリンパ：
赤ちゃんの背骨のカーブを保つ



ペンギーノクッション：
ママの楽な授乳を手伝う独特な三角形



ひらめきレクレール：
遊びかたいろいろ

女性チーム Voice

今回のプロジェクトを経験して改めて感じたのは、メンバー一丸となりひとつの目標に向かっていく重要性和、達成感です。とてもシンプルなことではありますが、それぞれの業務を持ちながらも、プロジェクトの時は全員が集まり、皆で意見を出し合う。そして互いに新たな視点を持ち、フォローしながら進めていくことに、チームワークを作り上げていく重要性を改めて感じました。通常の業務でも、関係者で話し合い意識を一致させていくことが不可欠であり、そうした一貫した組織作りこそがモチベーションをあげていくものと思います。今回のプロジェクトを通し再確認したチームワーク、そして一貫した組織作りを今後活かしていきたいと思っています。



中西裕美子さん

環境理念

イノアックは、環境と調和するテクノロジーと、環境を大切に
 する企業活動を通じて、かけがえのない地球の自然環境を尊重し、豊かな暮らしやすい社会の実現に貢献します。

環境方針

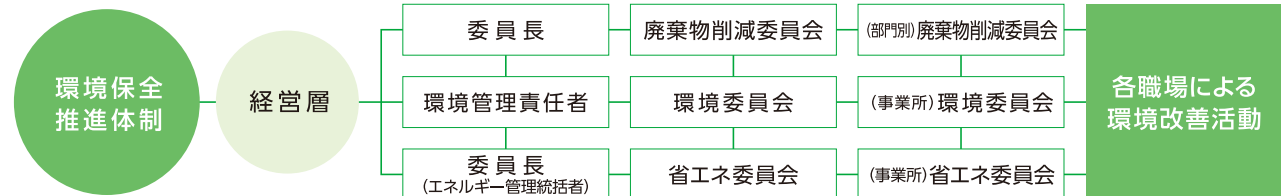
- ① 環境関連の法規制及びその他要求事項を順守し、社会に信頼される事業活動を行います。
- ② 地球温暖化防止のため省エネルギーなどのCO₂排出の低減活動を推進します。
- ③ 循環型社会に貢献できるよう省資源・廃棄物削減・リサイクルの活動に積極的に取り組みます。
- ④ 環境影響の可能性のある化学物質を適切に管理し、リスクを抑えて環境保全を図ります。
- ⑤ 環境マネジメントシステムを推進し、従業員の環境教育や環境監査を実施し継続的な改善を進めます。
- ⑥ 良き企業市民として、地域の環境保全活動を通じて、持続可能な社会の構築に貢献します。



環境マネジメント体制

環境活動を組織的に推進するため、トップマネジメント直轄で環境管理責任者が環境に関する統括管理を行い、環境委員会の活動で会社全体での環境活動を行っています。産業廃棄物と省エネルギーについては専属部会を設置し、より一層の低減推進を図るとともに、各部会で連携をとり環境マネジメントを推進しています。また、ISO14001:2015年版に適合した活動を2017年1月から開始するために、マニュアル類の改訂作業や体制整備も進めました。

■ 環境保全推進体制



環境内部監査








環境マネジメントシステム運用状況をチェックするため、内部環境監査を実施しています。監査チームは社内で規定された監査員研修を修了した2~3名でチームを編成し、環境マネジメントシステムの適切な運用、維持・向上が図られているかを確認しています。また、運用状況が不適切な組織に対しては、追加監査を実施し、適切な活動になるよう是正を行っています。

外部環境審査

環境マネジメントシステムの運用がISO14001 (2004年版)に従って適切に行われているか確認するため、社外の審査登録機関である一般財団法人 日本品質保証機構 (JQA) に審査を依頼しています。2016年度は石巻事業所及び(株)テクノフォームジャパン 埼玉工場の拡大審査も合わせて実施しました。その結果、改善指摘事項は発見されず、システムが維持されていると判断されました。また総合所見として、目標達成に向けた原因解析における課題などが挙げられました。

2016年度 主要活動総括

イノアックにおける2016年度の主な環境取り組み結果は、下記表の通りです。エネルギー使用量については、様々な設備等への断熱対策の実施などにより、目標未達ながらも前年比で使用量を削減することができました。廃棄物処理量については再資源化の推進を進めましたが、有価物市場が厳しくなってきたこともあり、目標未達となりました。PRTR対象物質の排出量については、CO₂発泡設備の導入による発泡剤の塩化メチレンの削減などにより、大幅に目標を達成することができました。

取り組み項目	2016年度活動方針・目標		2016年度活動実績	結果
エネルギー使用量削減	工場系サイト	原単位(使用量/生産金額) 326.5以下 〔使用量(原油換算値) 28,463kL(2015年実績)〕	原単位 364.6 〔使用量(原油換算値) 28,303kL(2016年実績)〕	
	事務所系サイト	使用量(原油換算値) 93.6kL以下	使用量(原油換算値) 90.7kL	
廃棄物削減	工場系サイト	原単位(処理量/生産金額) 4.49以下 〔処理量 4,004t(2015年実績)〕	原単位 5.95 〔処理量 4,634t(2016年実績)〕	
	事務所系サイト	処理量 1,565kg以下	処理量 1,385kg	
PRTR対象物質 排出量移動量削減	原単位((排出量+移動量)/生産金額) 2.92以下 〔排出量+移動量 243,128kg(2015年実績)〕	原単位 2.47 〔排出量+移動量 187,930kg(2016年実績)〕		
環境改善活動	環境改善件数(全社トータル)967件以上	1,707件		
環境コミュニケーション	CSRレポートの発行	発行		

 目標達成  目標未達成ながら進展  目標未達成

※主要活動総括の集計対象事業所は次の通りです。

(株)イノアックコーポレーション	安城事業所、桜井事業所、南濃事業所、八名事業所、石巻事業所、池田工場、池田第二工場、大野工場、神野工場、浮羽工場、本社(名古屋)、東京支店、大阪支店
(株)イノアック住環境	揖斐川事業所 (株)九州イノアック 菊池工場、浮羽工場、北九州工場
(株)テクノフォームジャパン	本社、埼玉工場 (株)九州カラーフォーム

環境法規制の順守

イノアックでは、事業活動に関連する環境法規制を特定し、日常管理を行っています。各事業所において、環境マネジメントシステムの一環として、騒音や産業廃棄物処理など法に基づく適切な対応が来ているか、監視・測定及びその評価で、環境汚染の未然防止など環境リスク管理を行っています。今後も引き続き企業倫理にのっとり、環境法令順守の徹底はもとより自治体との環境保全協定等についても、厳正に順守していきます。

■ 当社の事業活動における主な環境関連法規

- 大気** 大気汚染防止法、自動車NOx・PM法、ダイオキシン類対策特別措置法
- 水質・土壌** 水質汚濁防止法、浄化槽法、下水道法、土壌汚染対策法
- 騒音・振動・悪臭** 騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法
- 化学物質** 化学物質排出把握管理促進法、毒物及び劇物取締法
- 省資源・循環** 省エネ法、容器包装リサイクル法、フロン排出抑制法、PCB処理特別措置法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- 防災** 消防法、高圧ガス保安法
- 一般・その他** 工場立地法、特定工場における公害防止組織の整備に関する法律(公害防止組織法)、電波法

※地方公共団体の条例等については割愛 ※一部略称法にて表記

緊急事態の訓練

各事業所の特性に応じた事故・緊急事態の特定を行い、火災や設備などによる化学物質(油類・溶剤等)の漏洩など環境汚染の予防及び拡大防止のため、定期的な訓練を実施しています。安城事業所では、2016年5月31日、11月29日に全体防災訓練を、それ以外に原料流出防止訓練や夜間避難訓練など、部門毎の特質に即した個別の訓練を実施しています。その他の事業所においてもそれぞれ非常時の訓練を行い、有事に備えています。



安城事業所/消防隊による放水



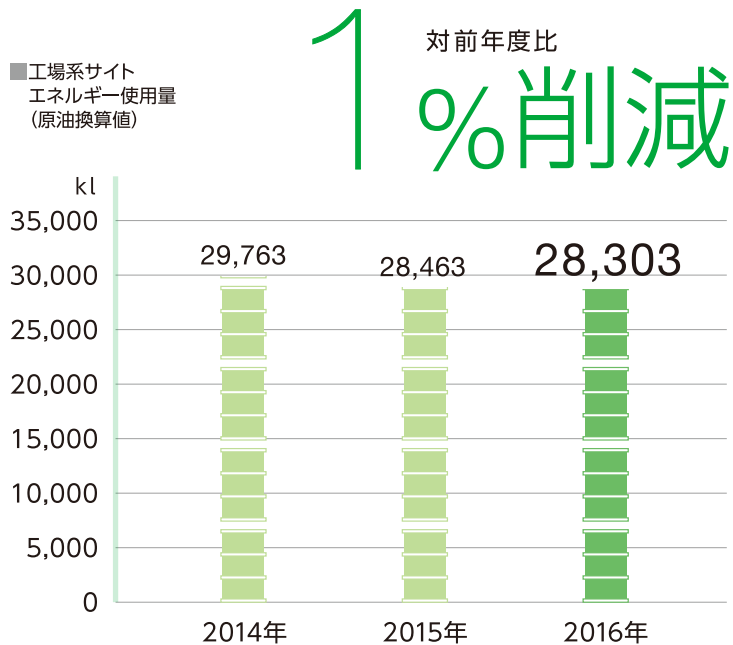
桜井事業所/初期消火の訓練



南濃事業所/原料漏えいの対処

エネルギー使用量削減

イノアックは、従来から地球温暖化防止のため、CO₂排出量の削減や省エネを推進してきました。具体的な活動としては、夏期省エネパトロールの実施や、工場屋根やボイラー配管、キュア炉などの断熱対策の実施、さらには照明機器のLED化や太陽光発電の導入なども推進しました。2016年は、2015年比では約1%、2014年比では約5%の使用量(原油換算値)の削減となりました。



本エネルギー使用量のグラフは、本年度より九州地区の数値も加算したため、過去のレポートに掲載した数値と異なります。

[取り組み事例]

2016年 省エネ推進 重点実施内容

空調室外機への散水による冷却効率アップ

イノアック製断熱ジャケットによるボイラー配管の断熱

超音波式エア漏れ探知機によるエア漏れ対策

イノアック製遮熱フィルム「セルシェード」による窓ガラスの遮熱

工場屋根のカバー工法による断熱

イノアック製断熱材「サーマックス」によるキュア炉の断熱

カーテン間仕切りによる空調効率アップ



安城工場 / 工場屋根の断熱カバー



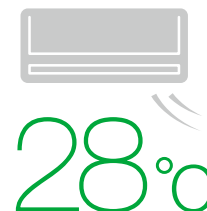
系列会社 / カーテン間仕切り



安城工場 / 空調室外機への散水

サマーエコスタイルキャンペーン

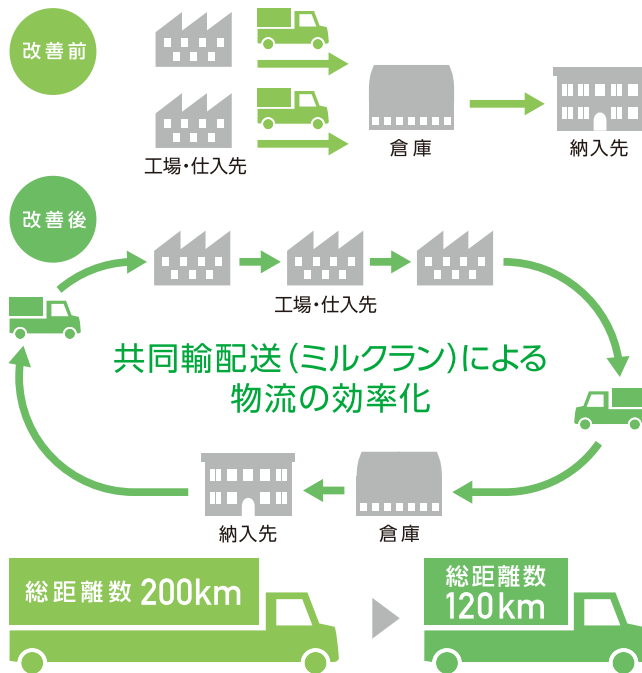
イノアックでは節電対策、地球温暖化防止策の一環として、サマーエコスタイルキャンペーンと題してキャンペーンを実施し、従業員の省エネ活動の啓蒙を働きかけています。



グリーン物流へのアプローチ

グリーン物流へのアプローチとして、共同輸配送(ミルクラン)、鉄道・海運へのモーダルシフト、物流拠点集約など物流改善活動を行い、エネルギー使用の合理化およびCO₂排出量の低減など物流からも環境改善に取り組んでいます。

■ 共同輸配送(ミルクラン)による物流の効率化



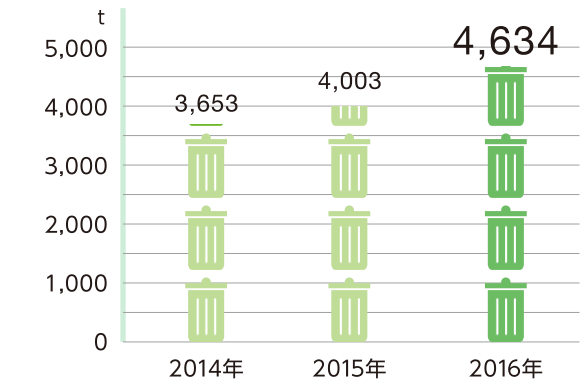
廃棄物削減活動

廃棄物削減活動については、全社廃棄物削減委員会を中心に、廃棄物削減事例の報告及び横展開と、廃棄物の発生源対策として、古紙の分別による再資源化をはじめとするリサイクル資源としての活用の拡大や、各事業所においてマテリアルリサイクルも積極的に推進しています。しかしながら近年は有価物(引取り)の市場が厳しくなっていることもあり、産廃として処理せざるを得ない状況も多くみられます。

環境負荷物質低減活動

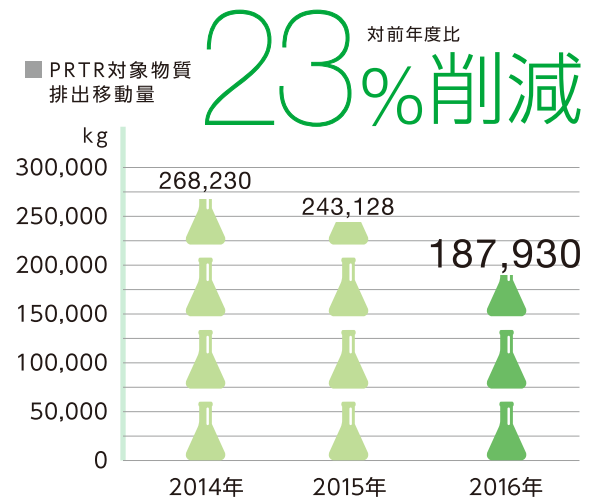
イノアックではウレタンフォームの原料であるm-トリレンジイソシアネートや、塗装工程におけるキシレンやトルエンなどのPRTR対象化学物質を使用しています。それらの対象化学物質の取扱量や排出量の削減の取り組みとして、収率改善によるロス削減や非含有タイプへの切り替えなどを進めており、また浮羽工場では、ウレタンフォームの発泡剤に有害な塩化メチレンを使用しないCO₂発泡設備を導入しました。こうした活動により、2016年は、2015年比では約23%、2014年比では約30%の大幅な削減を達成しました。

■ 廃棄物処理量



本廃棄物処理量のグラフは、本年度より九州地区の数値も加算したため、過去のレポートに掲載した数値と異なります。

■ PRTR対象物質排出移動量



※P15・16の環境データに関する集計対象事業所

◎(株)イノアックコーポレーション/安城事業所、桜井事業所、南濃事業所、八名事業所、石巻事業所、池田工場、池田第二工場、大野工場、神野工場、浮羽工場、本社(名古屋)、東京支店、大阪支店

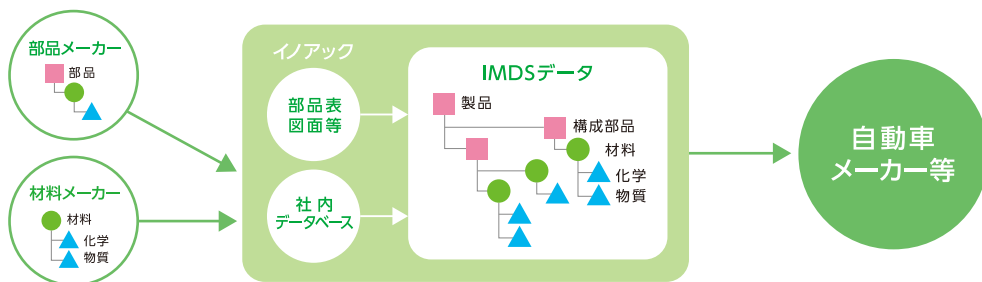
◎(株)イノアック住環境/揖斐川事業所 ◎(株)九州イノアック/菊池工場、浮羽工場、北九州工場 ◎(株)テクノフォームジャパン/本社、埼玉工場 ◎(株)九州カラーフォーム

IMDSやJAMP等の利用促進

イノアックは、ウレタン、ゴム、樹脂の3素材を利用した成形品製造メーカーとして、特に主力となる自動車部品分野ではIMDS^{*1}を利用した化学物質情報の登録および顧客への報告を行っています。2003年2月にIMDSを導入して以来、サプライチェーンを通して必要情報を収集し、IMDS登録を行う管理体制を整えています。

IMDSの有効利用、信頼性の確保、効率化のために、各技術部門の環境担当者を対象にした個別指導や勉強会を実施し、情報や課題を共有化し問題解決に努めています。

■ イノアックにおけるIMDSの情報収集～報告の流れ、化学物質管理の仕組み



また、電機業界を中心として利用されているJAMP^{*2}フォーマット(AIS、MSDSplus)による情報収集や顧客への報告にも対応しており、今後産業界全体で移行していくことが予想される統一フォーマットのchemSHERPA^{*3}への対応準備も進めています。

*1 IMDS (International Material Data System) : 欧州ELV指令への対応に端を発して開発された自動車業界における材料・化学物質情報を伝達・収集するインターネットを利用したデータベースシステム。

*2 JAMP (アーティクルマネジメント推進協議会) : 電機業界を中心にサプライチェーンの多くの企業が参加し、製品に含有する化学物質の情報を伝達するツール類 (JAMP AIS、JAMP MSDSplus) を展開している。

*3 chemSHERPA (ケムシェルパ) : 経済産業省が主導してJAMPを始め複数存在するフォーマットを統合して、サプライチェーン全体での活用をめざして2016年より運用を開始し、JAMPなども移行を進めている。

*4 REACH (Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals) : EUの化学物質管理に関する法規で、成形品に対しても高懸念物質情報の伝達等の義務が課せられるなど幅広い管理・対応が求められる。

社内データベースの構築

サプライチェーンへの調査を基に収集した、購入部品や原材料に含まれる化学物質の情報を一元管理する社内データベースを開発し、2007年末より自動車部門にて運用しています。

IMDSへの登録や環境負荷物質の含有調査の際に、必要となる各種情報を素早く取り出すことや重複調査を回避することができるため、作業の効率化が実現され、さらには報告内容の精度向上にも貢献しています。

欧州REACH規制への対応

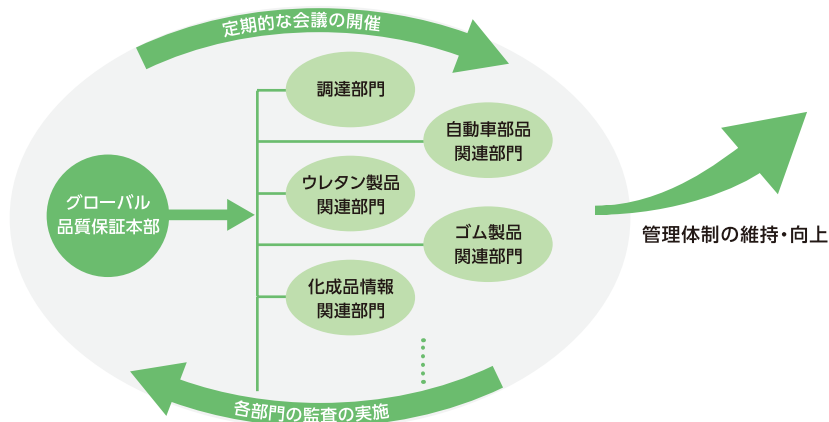
イノアックは、自動車部品を主とする成形品以外に、ウレタン、ゴム等の素材も各種産業用部品として生産しており、各素材の原料まで含めた多岐にわたる調達品の化学物質情報の把握が必要となります。そのため環境管理部門がREACH^{*4}規制等の環境関連法規に関する最新情報を都度社内関係者へ配信し、最新の高懸念物質の情報等を的確に把握・共有化するとともに、購入原材料に含有する化学物質の情報収集を行っています。

グリーン調達基準の制定・運用

各種法規や顧客等により規制される化学物質や、含有量を把握して削減に努めるべき化学物質などをリスト化してグリーン調達基準として調達先に提示し、購入する原材料に含有する化学物質情報の把握に利用しています。またREACH規制等の最新法規への対応も考慮した見直しを行いながら、運用しています。

化学物質管理のコミュニケーション

環境管理に関する全社組織であるグローバル品質保証本部が主体となり、2か月に1回程度の頻度で、定期的に各事業部の化学物質管理部門を招集し、会議を開催しています。社内の化学物質管理体制の確認や運用ルール の制定、グリーン調達基準の見直し、意見交換などを行うとともに、定期的に各事業部に対する管理体制の監査を実施し、適切で確実な管理体制の維持・向上に努めています。



ライトダウンキャンペーン2016

イノアックは、地球温暖化防止策として環境省が推進している「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」に毎年参加しています。2016年度は夏至(6/21)と七夕の日(7/7)にグループ会社を含めた10事業所で実施しました。



本社(名古屋)ネオンサイン



安城事業所正門看板



桜井事業所西側看板



桜井事業所正面看板

事業所周辺の清掃活動

各事業所では事業所周辺の清掃活動を実施しています。



安城事業所



大野工場



南濃事業所



八名事業所



クリーン クリーンな超臨界発泡技術を用いた特殊樹脂素材

軽量・高反発 靴用部材「TURBOFLEXII」

「TURBOFLEXII」は、有害なガスを発生する化学発泡剤をいっさい使用しない超臨界射出発泡成形により製造される、低比重で反発弾性の高い特殊樹脂素材で、高性能スポーツシューズのミッドソールの踵部などに用いられており、例えばデサント社製バレーボールシューズ「SKY MID/SKY LO」に採用され、V・プレミアリーグで活躍する選手も愛用しています。



「SKY MID」

高反発と衝撃吸収力を
兼ね備えた素材TURBOFLEXII



ミッドソール

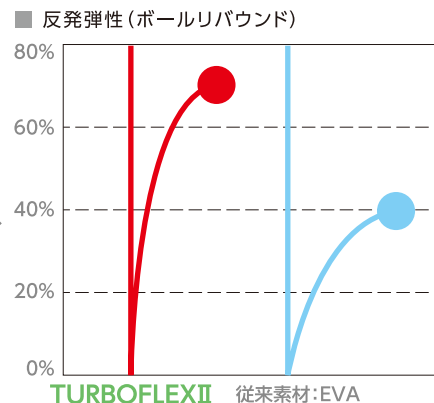


「TURBOFLEXII」は(株)イノアックコーポレーションの登録商標です。

従来品との性能比較

項目	単位	TURBOFLEXII	従来素材: EVA
密度	kg/cm ³	300	130
反発弾性	%	70	40
C硬度	°	53	48
圧縮永久歪	%	49	71

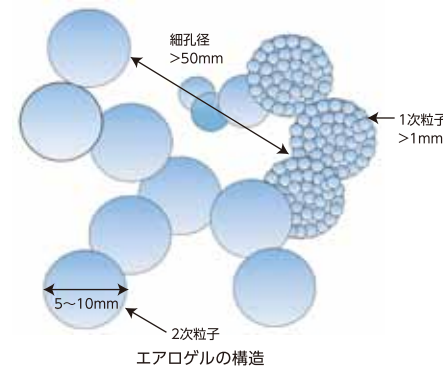
※上記数値は、代表値であり保証値ではありません



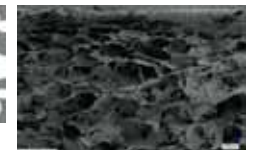
省エネ 高い断熱性を持ちながら加工性・柔軟性にも優れる複合材

次世代断熱材「フレキシブルエアロゲル」

エアロゲルとは、低密度で空隙率の高い多孔質の乾燥ゲル体で、ゲル単体では非常に脆いため、製品(断熱材)化にあたっては不織布基材に含浸させるなどの必要がありますが、使用時のゲルの脱落(粉落ち)や断熱性が十分でないといった弱点がありました。微細セル構造を有したスキン層付き特殊発泡体と複合(セルに充填)させることで、粉落ちが極めて少なく、高い断熱性を持ち、加工性・柔軟性にも優れた製品となり、今後、自動車や建材など様々な分野への利用が見込まれます。



微細セル発泡体 単体



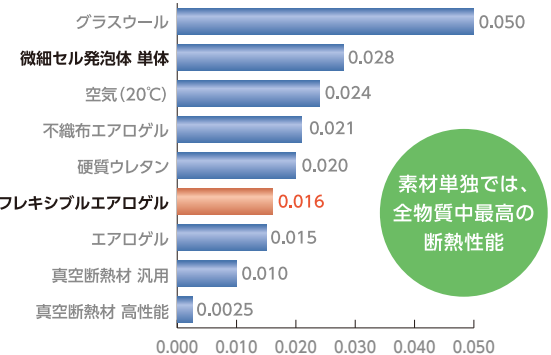
エアロゲル複合材(SEM画像×200)



■ 断熱性

項目	単位	物性値	
		発泡体 単体	エアロゲル 複合材
厚み	mm	1.75	1.75
見掛け密度	g/cm ³	50	200
熱伝導率	W/m·K	0.028	0.016

■ 熱伝導率 (W/m·K)



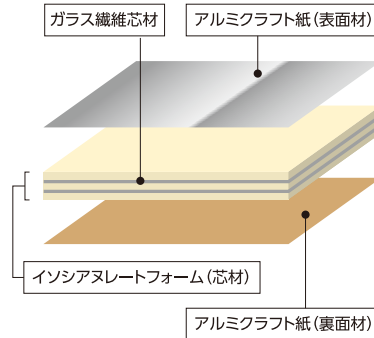


省エネ 軽量で防湿性も備えた断熱材

サーマックスRII

サーマックスは建築用断熱材、設備遮熱材など広く断熱・遮熱材として使われるイソシアヌレートフォーム*です。「サーマックスRII」は、熱伝導率0.022W/mKと高い断熱性、燃焼時炭化する難燃性を有し、厚さ25mmで1.3kg/m³の軽量性、独立気泡とアルミ箔による防湿性、ノンホルムアルデヒドといった環境安全性にも優れる製品です。

*イソシアヌレートフォームはウレタン結合に加え、イソシアヌレート結合を持つ複合体の分子構造フォームです。



優れた断熱性能

品名	密度 (kg/m ³)	熱伝導率 (W/mK)	厚さ (mm) ※
サーマックスRII	33	0.022	22
硬質ウレタンボード	30	0.024	25
押出ポリスチレンフォーム ^{※1}	30	0.040	40
ロックウールフェルト ^{※2}	45	0.049	50
グラスウール ^{※3}	10	0.052	55

※1 押出ポリスチレンフォーム：JISA 9511 1種 ※2 ロックウールフェルト：JISA 9504 ※3 グラスウール：JISA 9521
※熱抵抗値1mk/wとなる厚さの比較(同じ断熱性能を得るのに必要となる厚さ)

塩ビ系防水シート用の「サーマックスRII」の特徴

屋外に近い環境下での断熱性・耐候性・耐水性・耐熱性などの品質のバランスが良く、また塩ビシートの可塑剤を吸着しない従来の「サーマックス」に、施工時の課題となる曲げ剛性および耐座屈性を向上させたタイプを開発。アルミ箔仕様により、塩ビシートのピンホール通電検査も実施可能です。



敷設している様子



施工状況(手前が「サーマックスRII」)

曲げ剛性・耐座屈性を向上



コンフォート 二重構造で断熱性・吸音性を向上

ツインコンポジットダクト

自動車のエアコンの風を車室内(エア吹き出し口)まで導く筒状のダクトは、従来はポリエチレン製のブロー成形品が使用されてきましたが、燃費向上の要求から、さらなる軽量化や断熱性の向上が求められ、それに応えるため繊維層と発泡層の二層構造の「ツインコンポジットダクト」を開発しました。重量は従来品の約半分となり、断熱性は約60%、さらに吸音性も向上してエアコンのブロー騒音の低減や、結露の滴下の抑制といった効果も実現しました。

現行品: ポリエチレン製ブローダクト



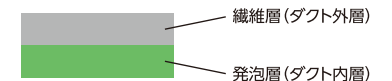
PE単層

開発品: ツインコンポジットダクト



繊維+発泡PE 2層シート

- ・軽量化: 現行比 約50%ダウン
- ・断熱性向上: 現行比 約60%アップ
- ・結露防止: 現行 結露あり→結露なし
- ・吸音性向上: 現行比 約10%改善



お客様の課題解決に向けて

より安全で快適な暮らしの実現に向けて、現代社会の進化はますます加速化し、そのニーズは細分化しています。イノアックは素材プロセスメーカーとして、マーケットが必要とするかたちに素材をイノベーションすることで、そのニーズに柔軟に対応してきました。お客様の課題解決に向けて、これからも豊富な素材と優れた技術力で、私たちはチャレンジし続けます。

お客様からの評価・受賞

課題解決に向けてのさまざまな取り組みは、2016年も国内外のお客様から評価をいただいています。日本では、コスト、品質、CSR、開発、量産対応の取り組みに対してNo.1サプライヤーとして6年連続で「プレミアムパートナー」に認定いただいた例や、新型車種部品の円滑な立上げ、コストダウンへの貢献などで表彰いただきました。また北米、中国、タイ、インドネシアなどの海外でも安全実績やコスト削減、VA提案に関する賞、部品量産に向けた活動、包装設計、品質目標達成、品質、プログラム立上げ、開発・生産・品質についてなど、さまざまな表彰を受けています。

[2016年度の主な受賞]



【北米】ゼネラルモーターズ様より
優秀賞金賞(サプライヤー部門)を受賞



【日本】富士ゼロックス様より
「2016年度プレミアム
パートナー」に認定



【インドネシア】
地方政府より事故ゼロ賞を受賞



【中国】NISSAN CHINA
INVESTMENT CO., LTD.様より
包装設計優秀賞受賞

品質向上の取り組み

イノアックでは品質マネジメントシステムのレベルアップ、重大クレームの未然防止活動、品質を担う人材育成を重点に、様々な品質向上活動を行っています。日々PDCA※サイクルを回し、お客様に満足いただける品質の提供を第一に努めています。

※PDCA:計画、実行、評価、改善

[取り組み事例]

重大クレームの未然防止活動

社会的信用の失墜と多額の保障金により、会社の存続が危ぶまれるような品質不具合を未然に防ぐ事を目的とし、国内・海外の生産拠点に対し品質保証・管理レベルを4M※1視点で監査・指導を実施し、品質力向上に努めています。また、新技術・新材料・新プロセス・新用途のいずれかに該当する新製品については、上市前にDR※2を実施し、重大不具合の未然防止に努めています。

※1 4M:人、機械設備、材料、方法
※2 DR:デザインレビュー

人材育成

イノアックグループ全社員を対象とし、問題解決・品質改善活動の一番基本となる品質管理の基礎教育を進めています。この教育では品質管理の基礎であるQC7つ道具から5QC手法を教育し、国内・海外の品質を担う人材育成を進めています。



QC改善世界大会

日々の生産改善・品質改善・業務改善のためQCサークル活動を行い、「生産性の改善」「不良削減」「収率改善」「自動化・省人化」「仕事の効率化」と多岐にわたり、各自の抱える課題についてPDCAを回して解決した大きな成果を、QC改善世界大会を通して、改善のポイントをグローバルに展開し、さらなる改善に取り組んでいます。



品質革新(工程管理 IoT化)

速やかに情報収集・共有できるようにするため、製造現場でIoT化を進めています。安定的な生産維持、高い精度の品質保証を確保するため、リアルタイムに生産条件と品質状況を監視し、傾向管理と異常の未然防止を行っています。また生産日報の自動出力、設備稼働状況の把握などもIT技術を活用し、より良い品質、より安定した工程づくりに取り組んでいます。



調達基本方針

① グローバル調達活動の推進

イノアック国内外の拠点を活用したグローバルな調達活動と、パートナー関係の強化を図ります。

② 法令・社会規範および社内規程の順守

法令・社会規範および社内規程を順守し、健全で開かれた調達活動を推進します。

③ 公平・公正で誠実な調達活動の推進

お取引先様に対して公平・公正な競争の機会を提供し、誠実な調達活動を推進します。

④ 環境・人権に配慮した調達

イノアック環境方針に基づき、地球環境に配慮した調達活動を行います。紛争鉱物(コンフリクト・ミネラル)など、人権・社会問題の原因となりうる原材料の使用については、影響に配慮した調達活動を行います。

⑤ お取引先様との相互信頼に基づいたパートナーシップの構築

お取引先様との強固な信頼関係と連携を図り、技術力および品質の維持・向上に努めます。

グローバル拠点における最適調達の実施

原材料、部材等の現地調達を通じて事業拠点の所在する国々に貢献し、最適品質・最適価格に加え、長期的な取引を念頭に入れたお取引先様との良好なパートナーシップをめざします。またグローバル生産に対応した、より戦略性の高い購買活動を推進します。

お取引先様とのパートナーシップ強化

お取引先様約80社と共にイノアック協力を組織し、様々な活動に取り組んでいます。講演会を通じたコンプライアンスやリスクマネジメント等の啓蒙活動、また分科会での活動内容について、お取引先様代表にグループ全社の発表会にて発表いただくなど、相互の企業レベルを向上することに努めています。



グリーン調達活動の推進

年々厳しくなる環境規制への対応を進めるため、「イノアックグリーン調達基準」を制定し、地球環境に配慮した調達活動を推進しています。また、調達物流の改善として積載効率の向上などの検討に取り組み、環境負荷の低減にも努めています。

紛争鉱物への対応

コンゴ民主共和国およびその隣接国など紛争が絶えない地域において産出される鉱物が、人権侵害、環境破壊、汚職など、不正に関わる組織の資金源になっている、いわゆる紛争鉱物問題に対し、そのような鉱物を使用しない方針の下、お取引先様各社と連携し情報開示に努めています。

地域防犯活動『青パト・こども110番の家』

安城事業所では安城知立安全運転管理協議会が運営する『青パト』に参加し、地域の防犯に協力しています。出勤日で「5のつく日」に毎月2名乗車で、青色回転灯を車輛の天井に取り付け、指定されたコースの巡回パトロールを長年継続しています。『こども110番』は、近隣の子供たちの非常時の避難場所として指定を受けています。一例としては、下校中の小学生が知らない人に写真を撮られたとの事で、避難されてきました。幸い事件性はありませんでしたが、ただちに警備室で保護対応しました。防犯活動への協力で小学校よりお礼を頂きました。



パトロールの出発式

地域教育活動

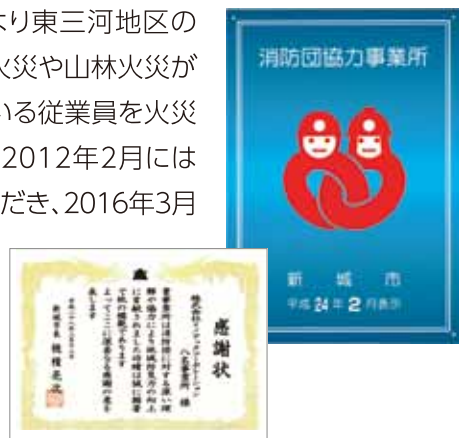
イノアックは地域社会の一員として、地域の人々との交流に積極的に取り組んでいます。多くの事業所では小学生から高校生まで幅広い年代を工場見学や実習、職場体験、インターンシップなどで受け入れています。この活動は地元の学校からの要請により、地域教育への貢献活動として実施しています。一例としては、八名事業所（新城市）では中学生を受け入れ、試験室や製造現場での職場体験を実施しました。また南農事業所（海津市）では高校生を受け入れ、製造現場の実習作業を体験してもらい、望ましい勤労観、職場観を育成し、協調性を養う一助としました。



化粧パフの説明

消防団活動への支援

八名事業所では、1993年の生産開始当初より東三河地区の地元消防団の活動に協力してきました。住宅火災や山林火災が発生した時には、消防団員として登録されている従業員を火災現場に急行させ、消火活動を行っています。2012年2月には新城市消防団協力事業所としての認定をいただき、2016年3月には消防団活動への支援に対して、新城市長から感謝状をいただきました。今後も事業所内の防災活動だけでなく、地元東三河の防災活動にも積極的に取り組んでいきます。



地域広報活動への協力

岐阜県池田町の移住応援ガイド作成にあたり、池田町役場企画課より町内の代表的な企業に依頼があり、イノアックからは2名が座談会に参加しました。「中部圏の中心である名古屋より、電車（JR・養老鉄道）・車で1時間とアクセスもよく、豊かな自然と古き日本の原風景が残る環境で、子育て・介護も充実していますので、ぜひ池田にお越しください」と、生活を満喫できる「さくらとお茶・福祉のまち池田町」をPRしました。



座談会

自然災害被害者の支援

INOAC POLYMER LANKA (PVT) LTD.(スリランカ)

■ 洪水

同地区の洪水被害に対し従業員より寄付を募り、被害者に給付しました。また工場近隣の被災地に赴き、マットレスや生活用品などの寄付を行いました。



INOAC AUTOMOTIVE (THAILAND) CO., LTD.(タイ)

■ 地震

4月に発生した日本の熊本地震の被害者救済のため、イノアックグループの募金活動に参加しました。

INOUE RUBBER (THAILAND) PUBLIC CO., LTD.(タイ)

■ 洪水

南部で発生した洪水の被害者となったゴム農家を支援するため、インスタント食品を提供し、契約時期より早期にゴムを買い取りました。同時に農園の問題も聞き取り、アドバイスしています。

INOAC VIETNAM CO.,LTD.(ベトナム)

■ 洪水

10月に発生したサリカ台風による洪水被害者を支援するため、クアンミン工業団地の他社とも協力し募金活動を実施、この募金で食料や生活物資を被害者に提供しました。



小学校の修理とイベント

INOAC INDUSTRIES (THAILAND) CO., LTD.(タイ)

経営陣提供品のオークションや楽器演奏で集めた資金で、小学校の子供たちのためのイベントを開催。また事前の調査に基づき、本格的な校舎の修繕も行いました。



植林

INOAC AUTOMOTIVE (THAILAND) CO., LTD.(タイ)

アマタナコーン工業団地の植林活動に参加し、この工業団地の緑化を行いました。



消防活動

INOAC INTERIOR SYSTEMS St.Mary's(アメリカ)

社員がボランティアで長年消防士の活動を行い、会社としてこれを支援しています。今回この活動が地域から表彰されました。



両立支援のための制度

従業員が働きやすい環境づくり、女性の活躍推進を目的に、仕事と家庭の両立支援に積極的に取り組んでいます。育児休業規程では、子が2歳に達するまで育児休業取得を可能とし、子の看護休暇は1人の場合は5日間、2人以上の場合は10日間の特別休暇(有給)を付与しています。また、最長3年間(子が小学3年生までが対象)取得可能な「育児短時間勤務制度」を導入しています。ほかにも、配偶者出産時に取得できる5日間の特別休暇(有給)を設けています。

両立支援制度一覧(施行年)

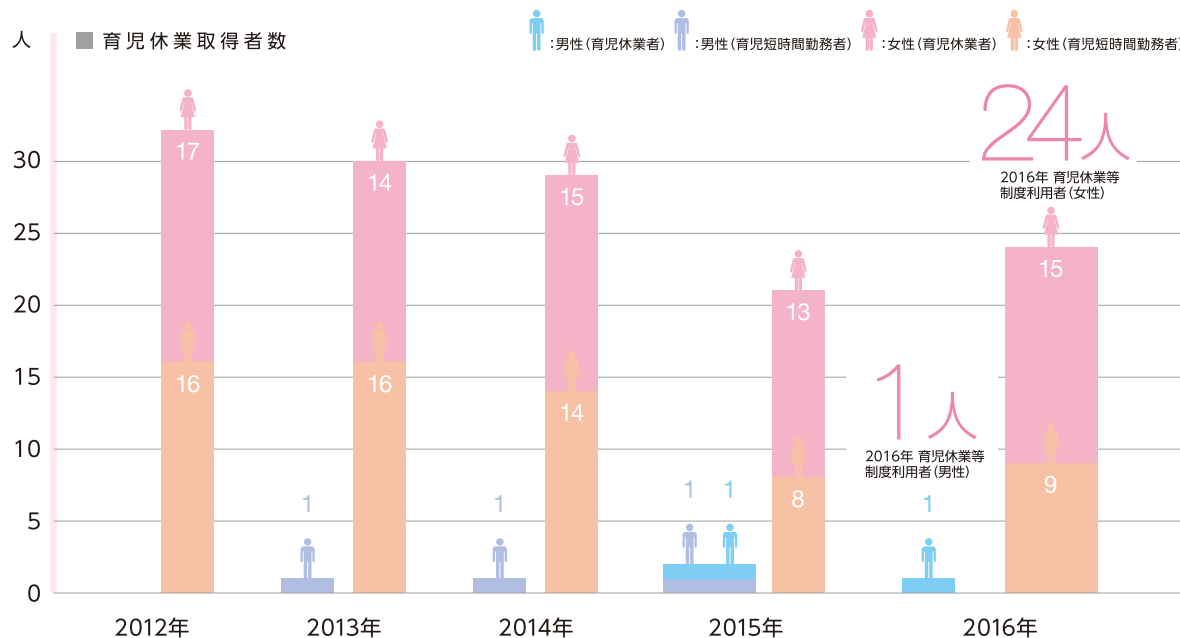
- 配偶者出産休暇(1980年以前)
- フレックスタイム制実施(1990年)
- 介護休業規程(1990年)
- ハッピーホリデー休暇(1991年)
- 育児休業規程(1992年)
- 母性健康管理の措置に関する規程(1998年)
- 半日有給休暇取得制度(2000年)
- ファミリーサポートホリデー休暇(2005年)
- 子の看護のための休暇(2005年)
- 育児休業規程改訂(休業期間延長)(2005年)
- 育児短時間勤務制度(2008年)
- 介護休暇(2010年)

年次有給休暇取得促進の取り組み

昨今、「働き方改革」が叫ばれる中、今後、「年次有給休暇を年間最低5日間取得」の義務化が法制化される動きがある状況です。こうしたことを踏まえ、2017年度より管理職も含めて最低5日間を計画取得することを奨励し、具体的に取り組みを始めました。

2017年度 年次有給休暇取得計画(高橋君)

氏名	所属	職種	性別	年齢	勤続年数	年次有給休暇取得計画(日)	年次有給休暇取得実績(日)
高橋君	営業	営業	男性	35	10	5	5
佐藤君	営業	営業	男性	30	5	5	5
鈴木君	営業	営業	男性	28	3	5	5
田中君	営業	営業	男性	25	2	5	5
山田君	営業	営業	男性	22	1	5	5
中村君	営業	営業	男性	20	1	5	5
小林君	営業	営業	男性	18	1	5	5
高橋君	営業	営業	男性	15	1	5	5
佐藤君	営業	営業	男性	12	1	5	5
鈴木君	営業	営業	男性	10	1	5	5
田中君	営業	営業	男性	8	1	5	5
山田君	営業	営業	男性	5	1	5	5
中村君	営業	営業	男性	3	1	5	5
小林君	営業	営業	男性	2	1	5	5
高橋君	営業	営業	男性	1	1	5	5



有休を取ろう

まずは年間最低5日間以上の計画をたてよう。

年次有給休暇最低5日の計画取得奨励

- 11月30日までに、休日から10月31日までを計画し、5日間以上の有給休暇を取得する。
- 2017年度末に上記の条件を満たす従業員は、11月30日までに会社から有給休暇取得奨励金を受け取る。
- 上記の条件を満たさなかった従業員は、以下の賞状を受け取る。
- 賞状は、従業員が取得した有給休暇の日数を基に、取得した日数を賞状に記載し、取得すること。

対象 管理職を含めたイノアックグループ全従業員

イノアック労働組合 グローバル人事総務部

女性社員の登用

イノアックでは、女性社員の能力を引き出して、そのスキルや知識を業務で発揮してもらうために、積極的に活用を図るとともに、会社へ貢献できる環境づくりを進めています。女性管理職候補者向けに「女性活躍推進セミナー」を毎年開催し、女性社員の意識改革、キャリアアップを図っております。また、男性管理職向けに「女性活躍推進セミナー」も毎年開催し、女性社員の活躍を後押し出来る体制づくりを行っています。

■ 女性管理職昇格数 (※(株)イノアック技術研究所を含む)

2002年	2007年	2008年	2009年	2011年	2012年	2016年
1	1	2	2	1	1	0

単位:人数

女性管理職
昇格数合計
8人

女性活躍推進法施行に伴う取り組み

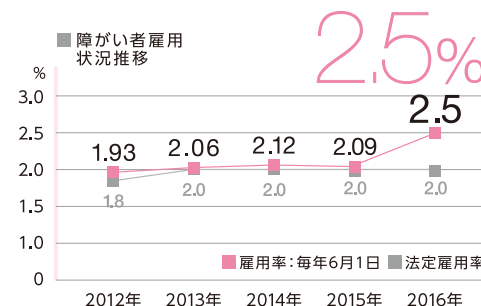
2016年4月女性活躍推進法施行に伴い、2016年4月1日から2021年3月31日までの5年間、女性が多くの部署で能力発揮・キャリア形成できるように下記3つの目標を掲げ、女性活躍の推進に取り組みます。

目標

- 1 女性係長の割合を男性と同率とすることをめざし、今期は係長への昇格資格をもつ女性社員のうち、10%を係長にすることをめざす。
- 2 女性管理職登用者を発掘するために、中堅社員研修や係長研修等の受講生の女性割合を10%とする。
- 3 管理職の年次有給休暇取得率を一般職の年次有給休暇取得率と同率にする。

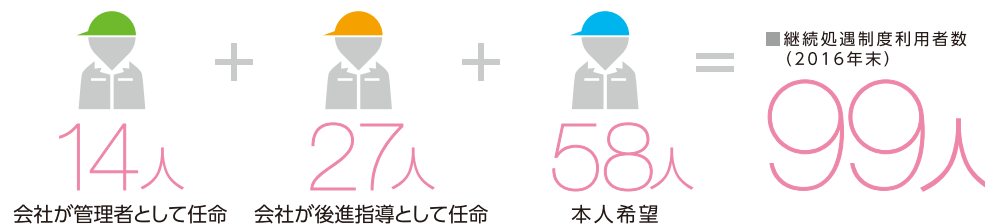
障がい者雇用

すべての人の可能性を広げる社会の実現をめざし、障がい者を積極的に雇用しております。障がい者を雇用する事により、従業員の周囲に対する気配りが生まれ意識が向上しました。



継続処遇制度の利用者

2015年1月から継続雇用の賃金形態を増やし、責任者としてやりがいを持てる制度を導入し、積極的に高齢者のキャリアを有効に活用できる環境づくりに取り組んでいます。



海外からの受け入れ

海外現地法人で働いている外国人を日本のマザー工場へ派遣し、技術習得やスキル向上のため「研修生」として受け入れ、人材を育成しています。日本で身につけた知識・経験を海外へ持ち帰って活用することにより、現地化の促進、ノウハウのグローバル伝承に繋がっていきます。また、海外現地法人からも「技能実習生」として受け入れを行っています。日本にて一定期間、特定の生産現場で作業をしてもらうことにより、帰国後の現場改善活動に寄与してもらっています。こうした取り組みを通して、グループの一員として自覚をもつと共に、イノアックファンになることを期待しています。

社員教育

グローバル人事総務部では、イノアックグループの従業員の能力を高め、成長できる場を与えていくための『社員教育』を企画・実施しています。『教育』は、生涯学習の一環と位置付け、従業員個々人の持つ特性や能力を引き出し、結合することによって、チーム力を向上することを目的としています。教育計画を『イノアック教育体系図』に一元化(見える化)することで、イノアックの従業員は「どの職位で、いつ頃に、どんな教育を受けられるか」を事前に知ることができます。



階層別教育

人間的魅力、社会人としての常識、精神面など心の自立をめざす〔人間性教育〕と将来必要とされる能力育成をめざす〔能力アップ教育〕を行っています。各役職時に受講する「節目教育」は、課長、新任基幹職、係長、班長、中堅というクラスがあり、全国から同じクラスのメンバーが集まり、同じ課題に取り組みます。さらに宿泊研修により、人脈づくりにもなります。

部門別専門教育

業務に必要な基礎知識や専門知識、技能の習得をめざす教育を行います。各部門からの研修ニーズを吸い上げ、それに見合った研修カリキュラムを企画します。

『営業部門』・・・初級、中級、上級の3つのレベルで、各々の営業力強化を図る研修

『技術部門』・・・中堅クラスの底上げを図る、プレゼン

テーション力、コミュニケーションスキル研修

『製造部門』・・・「モノづくり」の基本教育、基礎教育の拡充



グローバル人材育成

イノアックグループには、海外に50を超える事業所(工場、事務所)があります。今後、ますます進むグローバル化(ボーダーレス化)に対応できる人材を育成するために『グローバル人材育成』にも力を入れています。『グローバルマインドセットセミナー』では、従業員のグローバル意識の改革を促し、若い時から『海外研修』や『短期海外出張』を通じて、海外(グローバル)を体感できるような教育をしています。また、海外に赴任する際、駐在先で困惑しないように、先輩駐在者の経験談を交えて様々な単元を勉強する『海外赴任前教育』を充実し、海外駐在候補者や駐在予定者を計画的に教育する体制を整えています。

グローバル化対応に必要な外国語の習得のために、現在5クラスの『社内語学教室』を各地で開設し、学習費の補助も行っています。さらに語学の実践的学習の為、海外語学留学にも年間10名程度の選抜メンバーが派遣されています。

TOEICスコア650点以上を獲得すると、申請により毎月手当が支給される『語学手当制度』もあります。

自己啓発

従業員の自己啓発学習を補助するために『通信教育制度』もあります。コース修了後、通信教育の受講料を会社が半額負担(還付)する制度です。毎年、100を超すコース(講座)を設定し、『通信教育ガイドブック』を従業員に配布します。年間100名程度の受講者がいます。



安全の理念と基本方針

- ① 安全は、企業存立の基盤である。
- ② すべての事故、災害は防止できる。
- ③ 安全は、全員の自覚と責任ある行動で達成できる。

上記の安全の理念に基づき、安全と健康の確保は経営の最重要課題であり、安全衛生の管理体制を整備するとともに、安全衛生の高揚を図り、全員参加で社員一丸となった安全衛生管理活動を推進して、「安全は全てに優先する」を行動で示し、危険を予知して「危険な作業は絶対にしない・させない」の実践を定着しています。厚生労働省の運動行事や、過去の災害に学んだ月度重点実施事項を年間活動計画として定め、教育訓練の繰り返しと安全衛生防災活動評価による弱点の改善で、全拠点の安全衛生防災管理レベルの向上を図っています。

安全実務担当者安全総会の開催

1. 2016年度の総括
 - ① 安全衛生防災活動の活動報告
 - ② イノアックグループ災害統計と分析
 - ③ 通達事項・安全衛生法改正
2. 活動事例報告
 - ① 労働災害再発防止の取り組み
 - ・九州地区、東北地区(テレビ中継)
 - ・アメリカ(英語・同時通訳)
 - ② 改善事例
 - ・国内関連会社・中国
3. 2017年度の方針
 - ① 2017年度の安全衛生防災活動の説明
 - ② 労働組合からの提案事項



安全総会

全社安全衛生委員会の開催

- トップ自ら行動し全員参加で取り組む安全活動として、
- ◎中央安全衛生委員会…年4回
 - ◎役員による現場点検…年2回
 - ◎安全衛生実務担当者会議…年6回
 - ◎各拠点安全衛生委員会…毎月
- 上記により全社の安全・衛生・防災意識の向上と、組織風土づくりおよび再発防止の安全集会を開催しています。



トップによる安全巡視

安全道場で安全な人づくり

安全道場は15の体感機で『目で見て、耳で聴き、体で感じる』安全体感を体験する事により、従業員が作業中に起こりうる「危険を安全に」体感してもらいます。それにより危険感受性を高め、危険予知能力を磨き、確実に安全行動に取り組む姿勢を身につけ、災害ゼロを達成できる職場作りに取り組んでいます。



安全道場

健康増進に向けた取り組み

- 管理監督者が率先垂範するよう、知識とスキルの向上を図っています。
- ◎メンタルヘルス、ハラスメントの相談窓口を設置
 - ◎分煙化の徹底として、屋外喫煙室を設置
 - ◎受動喫煙防止措置対策の推進
 - ◎産業医、健康保険組合による学習・指導会を開催
 - ◎熱中症対策



屋外喫煙室の設置(受動喫煙の防止)

防災活動

危機管理規定に基づき行動し、自然災害などによる被害を最小限にとどめ、的確な初動対応と早期復旧を図ります。

1. 大規模地震災害
 - ◎建屋と設備の地震減災対策
 - ◎地震発生時の安全防災備品と備蓄品の備え
 - ◎地震災害発生後の対応
2. 火災・風雨水害対策
 - ◎生産現場の火災・防爆予防
 - ◎風水害対応備えと体制の確立

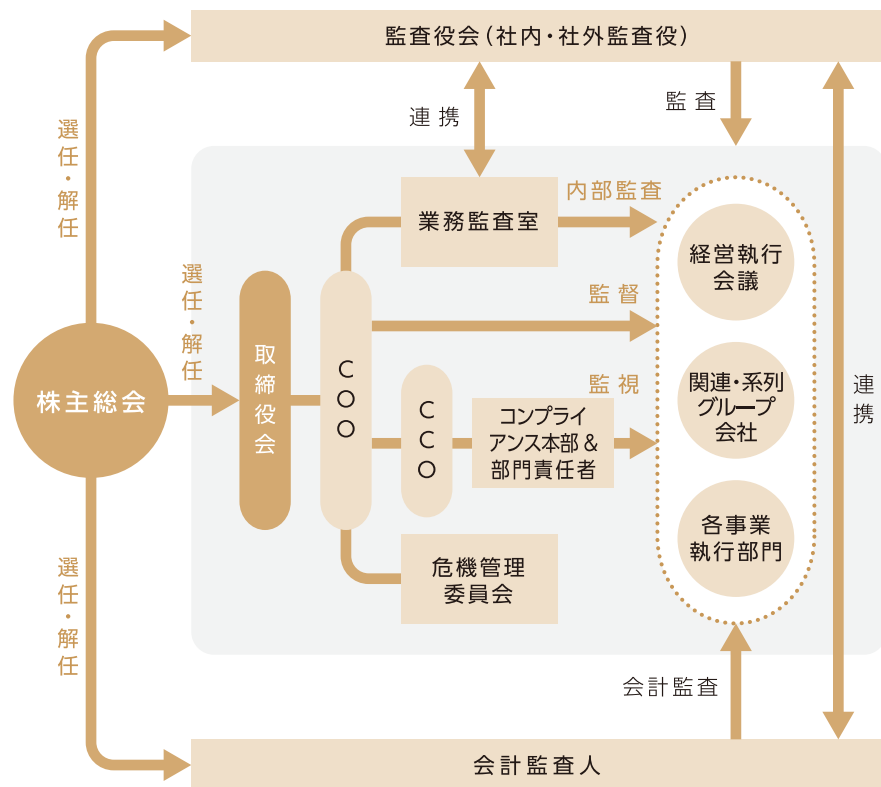


原料等漏洩対策訓練

コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

イノアックは企業業績・企業価値・社会的信用性を高めるために、コーポレートガバナンス強化を重要な経営課題と位置付けています。

■ コーポレートガバナンス体系図(組織系統図)



[コーポレートガバナンス体制]

取締役会

取締役会は7名で構成されており、経営に関する重要な意思決定を行っています。各取締役より職務執行状況、財政状態および経営成績などの報告を受け、業務執行の監視・監督に当たっています。

執行役員制度

経営に関する監督責任と執行責任を分離するため、執行役員制度を導入しています。取締役会より執行権限を移譲された執行役員が、事業部・グループ会社・主要職能組織長として、意思決定の迅速化と業務運営の効率化を図り、重要な業務執行への対応を行っています。

監査役会

監査役会は、社外監査役2名を含む3名で構成されています。監査役は、取締役会等社内の重要な諸会議に出席するほか、業務執行状況の聴取を通じて、取締役の職務の執行状況を監査しています。

[内部統制システム]

職務の執行内容を法令および定款に適合させるため、さまざまな施策を行っています。

コンプライアンス

コンプライアンス推進体制と、「企業行動規範」の全社員への教育。

情報管理

文書管理規程により、各文書の保管部署・期間を定めた管理。

企業集団としての管理体制

関連・系列会社においては、関連会社管理規定を制定。業務運営ルールを明確にするとともに、必要に応じ監査役による監査を実施。

リスク管理

各種リスクに対し経営執行会議でマネジメントしており、必要に応じ危機管理委員会を開催。「マイナス情報ホットライン」の常設による、リスク情報の早期入手と対応体制を確保。

コンプライアンスにおける 基本的な考え方

イノアックでは、コンプライアンスとは法令を守ることにとどまらず、従業員一人ひとりが高い倫理観を持って行動することと考えています。企業としての社会的責任を果たし、お客様の期待に応えていくためには、法令順守はもちろんのこと、従業員が企業の一員としての社会的責任を意識することが必要不可欠です。

コンプライアンス教育の実施

社内規程等の整備にとどまらず、従業員一人ひとりのコンプライアンス意識を高めるため、イノアック各拠点の営業担当者、調達担当者、新入社員、中途入社社員へのコンプライアンス意識教育を実施しています。他社のコンプライアンス違反事例を題材に、自職場での問題を想定したケーススタディや、日常業務を行う中での疑問点についてのディスカッションを行い、個人の法令順守意識の向上を目的としています。

相談窓口の設置

コンプライアンスの徹底のためには、万が一、コンプライアンス違反行為があった場合に、企業として迅速な対応を取ることが必要です。そのためイノアックでは、法務グループおよび外部弁護士事務所を相談窓口とする「ヘルプライン」を設置し、誰でも直接相談できる窓口を設置しました。また、別途「内部通報および公益通報者保護規程」を設け、通報者が不利益な扱いを受けないよう体制を整えています。

コンプライアンス・倫理プログラムの導入

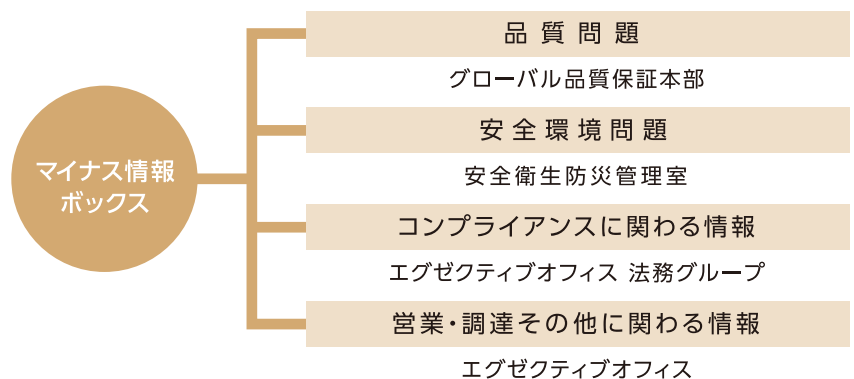
コンプライアンス・倫理プログラムを導入し、東京本社にコンプライアンス本部を設置しました。その統括責任者としてチーフコンプライアンスオフィサー（CCO）を任命、加えて国内および海外の各地域、拠点ごとにコンプライアンスオフィサーを、さらに各部門単位においてもコンプライアンス担当者を任命、配置しました。社内の規程を整備するとともに、従業員のコンプライアンス意識向上のための体制づくりを行っています。

内部監査の実施

コンプライアンス、リスク管理、遵法等の観点から、各部門および国内グループ会社を対象に、実地監査を実施しています。実地監査の結果、業務改善の必要性のある項目に関しては、継続的にフォローアップを行い、イノアックグループ全体のガバナンス向上に努めています。

マイナス情報ボックスの設置

コンプライアンスに関わる情報のみならず、品質関連問題、安全・環境問題、営業・調達・その他の問題が発生した際には、迅速に対応し問題の拡大を防ぐため、マイナス情報ボックス（受付窓口）を設置しています。



【お問い合わせ先】

株式会社 **イノアック コーポレーション**

<http://www.inoac.co.jp>

エグゼクティブオフィス広報室

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南二丁目13番4号

TEL : 052-581-1086 E-Mail : KOHO@inoac.co.jp

グローバル品質保証本部

〒446-8504 安城市今池町3丁目1番36号

E-Mail : GQ_system@inoac.co.jp